

令和5年度学校評価における自己評価と学校関係者評価

真岡高校全日制

1 自己評価について

(1) 重点目標の達成に向けた具体的な取り組み状況や達成状況

重点目標

- 「至誠」に則り行動できる人材・将来を見据えて学習に取り組む人材の育成
 - ◇学校生活における様々な教育機会での「至誠」を意識させ、取り組ませることで、基本精神に則り行動できる人材の育成を目指す。
 - ◇学習成果を活用する場面を社会と捉え、生徒の意識を広く実社会に向けさせ、将来を見据えて学習に取り組む人材の育成を目指す。

努力点

- ①「文武両道」および「人材育成」の実践
- ②進路目標に応じた指導の徹底
- ③主体的な学習・生活態度の確立に向けた取り組み
- ④諸課題への積極的な対応（安全・安心な学校づくり、いじめ防止対策、新学習指導要領への対応、ICTの有効活用等）

- ・県よりSTEAM教育のモデル校に指定され2年目となり、昨年度に計画立案したSTEAM教育推進事業を「総合的な探究の時間」を軸に実践している。1学年では「自己探究」「探究基礎」の2大柱とし、特に「探究基礎」は2年次の「テーマ研究」の準備として探究学習を体験できるよう計画し、効果的に実践している。例えば、1年7月に実施した特別講座は講師に大学の先生を招き、AIを活用して（タブレット使用）「真岡市の空き家問題を解決する」というもので、最新のテクノロジーに触れながら地域の問題解決に挑むものであり、学習成果を社会に目を向けるという重点目標に添った実践となった。
- ・生徒は文武両道を実践し、学習・部活動に日々積極的に取り組んでいる。部活動においては、陸上競技部、剣道部（46年ぶり）、吹奏楽部、文芸部が関東大会に出場し、陸上競技部は三段跳びで3位となりインターハイに出場し、吹奏楽は関東金賞3位で18年ぶりに東日本大会に出場するという快挙であった。また、11月には、本校2年生が県高校英語弁論大会で3位となり、関東甲信越大会に出場した。県新人大会では柔道部が団体3人戦で優勝した。
- ・「教育相談アンケート」を毎月1回実施し、早期発見、早期解決に向け組織的に対応している。また、学期に1度、自己有用感を感じているかを問う設問を設け、その結果を指導に生かす取組も行っている。さらに、スクールカウンセラーの配置により教育相談体制の充実を図っている。

(2) 学校運営の取り組み状況

- ・「至誠」を基本精神に掲げ、校長の学校経営方針の下、教職員が一丸となって、生徒の指導・援助に当たっている。本年度は、スクール・ミッションが「質の高い教科学習と智を統合する探究学習の深い学びを通して、他者と協働して新しい価値を創造する社会のリーダーを育成する学校」と策定された。スクール・ポリシーについても、全職員で本校の将来構想として協議し、県教委との調整を経て今年度中に最終案を検討・策定される。
- ・PTA、同窓会をはじめ、地域の関係諸機関との連携により伝統ある地域の進学校として将来リーダーとなるべき人材の育成に取り組んでいる。
- ・脱コロナにより、今年度は全ての学校行事をコロナ前と同様に行った。「学校祭」は入場制限がなくなり、1209名もの来場者で大盛況であった。マラソン大会も井頭公園を使用させていた。また保護者が給水のサポートに入ってくださり、全生徒が初体験となる10キロを無事に完走することができた。他の学校行事も予定通り実施し、合唱コンクール、校内体育大会、駅伝大会はクラスの結束を高めることができた。アンケートの「本校は学校行事が充実している」の回答の評価も生徒が7ポイント、保護者が6ポイント昨年度より高まった。

(3) 校務分掌各部・教科・学年の取り組み状況

- ・生徒の主体的な行動力を高めるため、各校務分掌が互いに連携を取りながら生徒の指導・援助を進めた。特に、進路指導部では、各学年の進路係と連携して、「3年間の指導の流れ」に沿った指導を行った。生徒指導部は、生徒のあり方生き方を自ら考える姿勢を醸成するような指導を心掛けた。また特別な支援を要する生徒に対し、特別支援教育委員会を開催し、学習指導部と連携して、学習指導の面で合理的な配慮に取り組み、効果的な支援を図っている。
- ・年5回の担任との面談が実施され、アンケートの「面談をなどを通して生徒理解に努めている」の回答は肯定的な意見が生徒95%、保護者91%と全ての回答の中で最も高評価されている。

(4) 授業改善及び学力向上に向けた取り組み状況や達成状況

- ・生徒の視点に立った授業改善を進めるとともに、主体的に授業に取り組もうとする態度を育むため、「授業に関するアンケート」を実施している。各教科の分析結果を職員会議で共有している。
- ・電子黒板やタブレットの効果的活用の研究と授業実践・改善によって、生徒の主体的・対話的で

深い学びを促進する授業が展開されている。タブレットは、英語のスピーキングテスト、資料閲覧や、グループ活動、総探の学習に使用している。また、出停の生徒向けにリモート授業も実施している。

- ・各教科の研究授業を互いに参観し、指導力向上に努めている。今年度は、STAEM教育推進事業の一環として、3年文Ⅱの国語（国語表現）授業において、地理（日本の人口問題）とコラボして「真岡市の人口問題」について問題解決を考えるという「教科等横断的な授業」が試みられた。「真岡市出前講座」も活用し、真岡市役所の方にもご協力いただいた。
- ・実用英語検定試験、数学オリンピックを本校会場で実施し、生徒に積極的に挑戦するよう働きかけた。英検の受検者数、合格者数が伸びており成果がでている。

(5) 開かれた学校づくりの取り組みに対する状況

- ・ホームページや学校だより（「白布ヶ丘だより」月1回発行）、一斉メール等を通じて、学校の情報が正しく保護者や地域に伝わるよう広報活動に努めている。学校だよりは近隣地域の回覧板に添えて配布していただいている。
- ・例年落ち葉清掃が生徒会主催で行われていたが、今年は生徒会に加え1、2学年の奉仕活動として学年を上げて行われた。1学年は12/1、2学年は11/24に学校周辺の落ち葉清掃を実施し、地域の方と連携して地域のご自宅の落ち葉も回収した。その模様は地域新聞「ケヤキの落ち葉大規模清掃 真高生が汗、近隣住民と絆も」というタイトルで記載され、真岡市長から環境美化に対する感謝状が贈呈された。他にも、野球部の地域清掃、真岡鉄道利用者の駅舎清掃などが例年通り行われた。また真岡児童館における教育ボランティアも実施され地域連携が図られた。

(6) 生徒・保護者アンケート結果を踏まえての評価

- ・今年度もICT支援員のサポートを受けFormsのアンケート機能で実施した。保護者、生徒とも99.2%という高い回答率を得ることができた。
- ・昨年比で高評価が5ポイント以上減少したのは、生徒の12だけであり、保護者はなかった。また、肯定的な意見が8割から9割以上を占めており、高い評価を維持している。「わからない」という回答が多い項目については、広報活動等を通して、より分かりやすい説明を続けていく。

(7) 教職員の意識改革及び意欲向上に向けた取り組み状況

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と教員の授業力向上を図っている。今年度は校内教員研修（8/21夏季後期課外の午後）で、先進的な試みを実践している他県の教諭を招いて教科等横断的な授業についての研修会を開いた。本校職員だけでなく他校の教員も参加し学びのSTAEM化で生まれる力、問いから始める授業について学んだ。先進校視察も行い、より質の高い授業作りの研鑽をし、生徒に「確かな学力」、「思考力・判断力・表現力」、「問題を解決する実践力」を身に付けさせるため、教科指導をベースにしつつ「総合的な探究の時間」で探究学習を実践している。
- ・進路指導部が開催する進学指導研究会と出願大学検討会において、直接生徒を指導する担任団と進路指導部の各教員が大学学部学科についての情報や進路選択についての考え方等を共有しており、学校全体で生徒の進路指導を行っていく体制づくりができています。

2 学校関係者評価について

(1) 評価組織（評価者）

学校評議員（保護者を含む）を学校評価委員に委嘱して評価を行った。

(2) 評価結果（評価者からのご意見）

- ・学校評価アンケートは全体としては高い評価である。
- ・教員の結果で、13項目中11項目が「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計割合が100パーセントになっているのは、普段の取り組みが数値化されたものであろう。
- ・教員と、生徒、保護者との数値にギャップがある項目は、充分理解が得られていないことなので、差が無くなるように取り組んで欲しい。先生方の熱意が伝わるようお願いしたい。
- ・[7]（いじめについて）は社会に出てからも生じる問題。どう対応すればよいのかも知って欲しい。
- ・[8]（社会ルールについて）は、よく遵守して周りから「さすが真高生」と言ってもらいたい。
- ・保護者の自由記述に、授業への指摘等厳しい意見があるが、真摯に受け止めて欲しい。また、部活動の活動時間等に関する指摘についても、今の時代に合うように対応をして欲しい。
- ・部活動について、夏の暑さ対策について留意して欲しい。特に剣道場は過酷である。
- ・1年生の保護者の自由記述は、一部誤解もあるが、期待が大きいということ。3年生には感謝の言葉がみられる。
- ・落ち葉清掃は地域との交流ができた。良い取り組みだと思うので今後も継続して欲しい。
- ・落ち葉清掃は「真岡新聞」で見た。いい情報が得られた。メディアを使うのは有効。
- ・外部への情報発信をHP等でもっと丁寧に。中学生の保護者や塾にPRすることも重要。
- ・学校行事以外の新しい取り組みとしてSTEAM教育を是非推進して欲しい。企業と連携してもいい。
- ・授業公開で英語の授業を見学したが、先生方の発音が素晴らしかった。また、ICT機器が有効的に活用されていたと思う。